

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立松江中学校

(令和2年2月10日作成)

1 学校教育目標	
㊦ 学ぶ意欲のある生徒 (かしこく) 知 ㊧ 強い心と体をもつ生徒 (たくましく) 徳・体 ㊨ 笑顔あふれる生徒 (あたたかく) 和・輪	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
1 教師一人ひとりの授業力の向上 (興味関心を高める導入の工夫、読解力の向上、学びを深める工夫) 2 集団生活を通じた豊かな人間性の育成 (子どもが主体となった学校行事や生徒会活動・委員会活動の推進) 3 共感的な人間関係の育成 (生徒指導・教育相談体制の充実、道徳教育の充実、特別支援教育の充実、命を大切にする授業) 4 教育環境の整備 (自己存在感が得られる教室掲示、読書環境の充実) 5 「幼保小中を一貫した教育」の推進	○学校教育目標、目指す学校像を意識した教育活動が推進され、一定の成果をあげることができた。 ○生徒指導上の様々な問題に対し、職員一人ひとりの共通理解と組織的対応により、粘り強く指導し、改善が図られた。 ○幼保小中を一貫した教育の取組においては、【推進するためにふさわしい組織】や【15年間を通じた教育課程の編成】ができ、また【目指す子ども像の共有】が図れ、成果をあげることができた。 ●より一層開かれた学校づくりを目指し、学校・家庭・地域との連携をさらに強化して、子どもをともに育てる意識を高める。 ●学力向上や「特別の教科 道徳」の評価についての研修を深める。

4 評価表 ※評価基準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	- 学校経営目標、方針 - 校務分掌組織 - 適所への適材配置 - 職員会議等の運営 - 予算の執行・決算・監査等	A	○学校教育目標を意識した教育活動が進められた。 ○企画委員会、職員会議や各種会議が適切に行われていた。 ○校務分掌組織の見直しを進めた。
	②研究・研修	- 研究組織、計画、実施 - 校内研修の推進 - 授業改善への取組 - 校外研修会への参加 - 人材育成	A	○毎学期、学年代表が実践発表を行い、優れた取組の共有化が図れた。 ○「特別の教科 道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」「特別支援学級」の指導案検討会や研究授業を行うことができた。 ○公開授業週間を設定し、相互に授業を参観した。
	③保健管理・安全管理	- 保健計画、安全計画 - 環境衛生の管理 - 健康観察、安全点検 - 緊急事態発生時の対応 - 危機管理マニュアルの作成・活用	A	○健康観察や校内の衛生管理等が適切に行われた。 ○危機管理マニュアルを活用し、充実した訓練が実施された。その結果、避難がスムーズに行えるようになった。 ○毎月、全教職員で安全点検を行うことを通して、安全に対する教職員の意識が高まった。
	④情報管理・施設設備管理	- 個人情報の管理、保護 - 施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の管理、保護は、適切に行われている。 ○点検活動や修繕等、積極的に進められた。 ●学校の備品や職員の机上の整理整頓をさらに徹底する必要がある。 ●ハトの糞等の対策が大きな課題である。毎日、清掃等行っているが、危険箇所もあり十分対応できていない。また、毎年、市教委にも繰り返し働きかけている。
	⑤地域との連携 開かれた学校	- 学校情報の発信 - 学校公開の実施 - 学校運営協議会 - 学校評議員制度の活用 - 地域・校種間連携 - PTA活動の活性化	B	○学校公開、PTA や地域との連携により開かれた学校づくりが推進できた。 ○学校だよりを充実させたり、学校のホームページを課業日に毎日更新して、情報を発信した。 ●家庭・地域との連携や地域の人材活用をさらに強めていく工夫が必要である。
	⑥幼保小中を一貫した教育	- 目指す子ども像の共有 15年間を通じた教育課程の編成 - 一貫教育推進のための組織づくり	A	○小中合同研修会、部活動体験入部、小中相互授業参観、合唱交流、作品交流、児童の中学校施設体験時に本校職員が授業を行うなど充実した取組ができた。今年度も小学校への乗り入れ授業を実施することができた。 ●教育課程についての連携を深めていきたい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	15年間を通じた課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	A	○授業時間は確保され、教育課程の編成はおおむね適切である。 ○日々の教育実践の中で、目標や方針の周知を徹底させていくことが出来た。 ○次年度に向けて教育課程の編成や年間の行事配列の見直しを行うことが出来た。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	A	○板書の工夫やICTの活用などにより、生徒の興味関心を引き出す授業を心がけた。 ○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」をベースにした授業を展開することができた。 ○校内研修では、授業参観期間を設け、授業について意見交換をする等、互いの授業改善に活かした。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	A	○新学習指導要領での完全実施の取組が出来た。 ○授業方法や評価の仕方について研修を深めた。 ○年間通して、全教職員で「特別の教科 道徳」の授業を実践した。授業実践後、情報交換を行い、次の授業に活かすことができた。 ○次年度も全教職員で「特別の教科 道徳」の授業実践を継続する。
	④特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 生徒会活動	A	○本部、各専門委員会等、生徒の主体性を活かした様々な取組が効果的に行われた。 ○3年間を見通した年間指導計画をもとに、行事計画や集会計画を見直し、委員会活動の活性化つなげることが出来た。 ○新学習指導要領での完全実施の取組が出来た。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫 - 地域の人材・物的資源の活用	A	○各学年において、体験的活動が計画的に実施された。 ○「命の大切さを学ぶ授業」など、3年間を見通した全体計画、年間指導計画の着実な実践が定着してきた。 ○新学習指導要領での完全実施の取組が出来た。
	⑥生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、生徒理解 - いじめ防止対策 - 保健、地域・施設との連携	A	○基本的生活習慣の定着に向け、生徒の自主性を活かした積極的な指導が行われた。 ○教職員の共通理解のもと、組織的な指導体制の強化が図られた。
	⑦キャリア教育	- 組織的なキャリア教育 - 指導方法の工夫と改善 - 啓発的経験の充実 - 進路情報の収集・活用 - 職場体験活動	A	○各学年において、体験的活動が計画的に実施された。 ○1年社会体験、2年高校説明会、3年上級学校訪問など、3年間を見通した全体計画、年間指導計画の着実な実践がなされた。
	⑧特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	A	○特別支援学級の教室設備も整い、円滑に運営されている。 ○支援が必要な生徒に対して、個別の指導計画をもとに適切な支援体制ができた。 ●生徒・保護者の一人ひとりの願いや思いを大切にした支援について、今後も取組たい。
	⑨学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○学校司書との連絡が密に行われ、図書室の利用や読書週間、借りる冊数が多い生徒の表彰等への取組を積極的に行うことができた。 ○学級図書を充実させるために、教職員等に呼びかけて本を寄贈してもらい、各教室に置くことができた。また、学級文庫も増設した。 ○図書室の利用を授業や昼休み等においても利用できるよう工夫できた。
	⑩情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	A	○授業でICT環境の活用を積極的に行っている。 ○情報モラルについて、集会やクラスで定期的に指導することができた。 ●全教員が機器を効果的に活用すべく、活用法についての研修を推進していく必要がある。
	⑪人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	A	○全教育活動を通じて、差別を許さない生き方を育て、お互いを認め合う態度を育てることができた。 ○校内研修で計画的に取り上げ、教職員の理解を深めた。

草加市立松江中学校

	領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり		確かな学力	・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	A	○板書の工夫やICTの活用などにより、生徒の興味関心を引き出す授業を心がけた。 ○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」をベースに授業を展開することができた。 ○校内研修では、授業参観期間を設け、授業について意見交換をする等、互いの授業改善に活かした。
		豊かな心	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携	A	○「特別の教科 道徳」の授業を全教職員で行った。授業後には、成果や課題について話し合いがもたれ、次の授業に活かされた。また、評価も全員が関わるなど充実した取り組みができた。 ○「特別の教科 道徳」と各教科・領域との関連も密にして取り組むことができた。 ○豊かな心の育成を図るために体験活動の充実が図られた。 ●ゲストティーチャーを活用するなど地域との連携を深める。
		幼保小中を一貫した教育の推進	・幼保小との連携 ・研究発表の成果と課題を活かした取組	A	○小中合同研修会、部活動体験入部、小中相互授業参観、合唱交流、作品交流や出前授業、中学校の施設体験の時には、本校教職員が授業を行うなど充実した取組ができた。 ○今年度も小学校への乗り入れ授業を実施することができた。 ●連絡協議会の運営について幼保小と確認をする。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学校教育目標、目指す学校像を意識した教育活動が推進され、成果を上げることができた。
- ・全教職員が関わって「特別な教科 道徳」の授業や評価について取り組むことができた。
- ・生徒指導上の様々な問題に対し、職員一人ひとりの共通理解と組織的対応により、粘り強く指導し、改善が図られた。
- ・幼保小中を一貫した教育の取組においては、昨年度の研究発表の成果と課題を受けて、今後も継続してできることを精選し、実践することにより成果をあげることができた。
- ・学校評価では、全体的に良好であった。保護者からは、「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」「思いやりの心」の育成の要望があった。これは、教育目標を具現化することで、保護者の期待に応えることができると考えた。来年度に向けた学校評価では、教育目標の実現に向けて、全教育活動でPDCAを行い、「松江中学校でよかった」と保護者が誇れる学校にすることを確認した。

6 次年度の改善策

- ・「幼保小中を一貫した教育」「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を学力向上のキーワードとして継続して取組、生徒一人ひとりの学力を向上させる。
- ・新学習指導要領全面実施に向けて、各教科において計画的に準備を行う。
- ・不登校や問題行動について、未然防止の観点で環境づくりと積極的な生徒指導を引き続き推進する。
- ・開かれた学校づくりを目指すため、学校行事への参加、環境整備事業への協力等、子どもたちとともに育てる意識を高めることにより、学校、家庭、地域との連携をさらに強化していく。
- ・支援が必要な生徒に対して、適切な支援ができる体制を充実させる。